

「割れた窓ガラス」理論

14、5年前にニューヨーク市のジュリアーニ市長の著作本で出会ったことばです。「一枚の割れた窓ガラスを放置すると、いずれ街全体が荒れて、犯罪が増加してしまう」（傍線筆者）という米国の犯罪学者が提唱した理論です。この理論については、事の善し悪し賛否両論がいろいろとあるようです。しかし、状況が悪化するときのきっかけと、そのプロセスと結果を示したものであると、当時は理解していました。これは、自分たちの生活や学校生活に置きかえると、大人として子どもたちに日々どう向き合うのか、子どもに何を気づかせていくのかを考えるヒントになると思いました。

掃除を例に挙げると、先ず「放置する」という感覚です。その感覚が現状把握を困難なものにしてしまっています。放置した状態が続くとそれが風景に馴染んでしまい「それが当たり前の状態」という誤ったメッセージになってしまい、いつしかそれが標準になってしまいます。そして、その状態が繰り返されることで、ゴミが増えていっても気がつかなくなり、状態がどんどん悪化(悪い状態が増加)することになります。このように、「掃除が行き届いた美しい状態」を知らないと少し汚れていても放置してしまい、それが当たり前になり徐々にゴミがあっても気づかなくなりどんどん汚い状態になるという悪循環になります。

日々の子どもの「仕事の完成度」を上げるためにも「きれいな状態」を見て確かめられるようにしておくことが鍵になります。掃除道具の片付けもトイレのスリッパ等も整列してすきっと片付けてある状態を知っていると、使用後もすきっと片付くことが多くなります。バラバラにおいてあることが放置されてあると、「ま、いいか」の感覚で、バラバラが標準になっていきます。大人が時々子どもたちと一緒に美しい状態にリセットし「標準の状態」を示し、同じようにすることを見届けることが必要になります。そして「来た時よりも美しく」のことばの通り、そういう行動を由とする感覚を育てていくことだと思っています。

定着するまで根気の要る取り組みですが、些細のことも見逃さず、いろいろなことに気づくようにコツコツと子どもたちと一緒にやっつけていこうと思います。

掃除だけでなく、授業、花を育てること・・・、いじめの認知、トラブルなど、学校生活のいろいろな場面で気づき、スピード感を持って事に当たっていきたいと思います。

今年も昨年に引き続き、教職員のチーム・ワークで心をつなげて、甲南中部小学校の子どもたちを健やかにたくましく育てていきます。今年もご支援の程よろしくお願いいたします。